

奈良医大 Nara Medical University newsletter

キャンパスだより

2019
vol.10

奈良県立医科大学に関する様々な情報を、地域のみなさまにお届けします



写真提供：橿原考古学研究所



写真提供：橿原市



市道慈明寺町・四条町線
イメージパース
資料提供：橿原市

Topics

- ・新キャンパス整備基本計画書の策定について
- ・新キャンパス周辺の市道整備
- ・MBT(医学を基礎とするまちづくり)の取り組み③
- ・緩和ケアのご案内
- ・がん相談支援センターの紹介
- ・各診療科の紹介(腎臓内科)

イベントなどのお知らせ

- ・大学祭(白檀生祭)

新キャンパス整備基本計画書の策定について

平成31年3月に「新キャンパス整備基本計画書」を策定いたしましたので、経緯と計画内容について簡単に紹介させていただきます。

本学は施設の老朽化・狭隘化に対応すべく、教育・研究部門を新キャンパスへ移転するとともに、現キャンパス附属病院施設の充実を図ることとしました。

また本学の数十年先のあるべき姿として平成29年4月に「奈良県立医科大学の将来像」を策定しました。その中で、新キャンパスの整備を見据えた教育・研究・診療などのあり方を検討し、その理念や方針を取りまとめました。

その後、整備工程を「先行整備」「継続整備」に分けること、「先行整備」では教養教育部門・看護学科が学ぶ施設を整備し、令和6年度中の竣工を目指すこととなりました。

こうした経緯を踏まえ、新キャンパスにおける整備方針や整備内容を具現化するために、動線・ゾーニング・インフラ・建物構成等を「新キャンパス整備基本計画書」として取りまとめました。

本計画では「良き医療人を育む充実した学習教育環境の整備」など四方針を掲げ、日本初の都城である「藤原京」をモチーフとした施設配置を計画しています。

このような整備基本計画に基づき、今後基本設計・実施設計にて、より具体化して参ります。

「奈良県立医科大学の将来像～新たなキャンパスづくりに向けて～」より抜粋

【建学の精神】

【最高の医学と最善の医療をもって 地域の安心と社会の発展に貢献します】

【各分野の理念】

(教育)

豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

(研究)

研究の成果を患者への最善の医療に生かし奈良県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究により医学の進歩に貢献します。

(診療)

患者と心が通い合う人間味あふれる医療人を育成し、地域との緊密な連携のもとで奈良県民を守る最終ディフェンスラインとして、安全で安心できる最善の医療を提供します。

(法人運営)

最高の医学の追究、最善の医療の追求を使命として、互いに連携しながら自らの職務に誇りと情熱をもって取り組み、課題に対して自ら行動できる人材を確保・育成することで、教育・研究・診療の理念を実現し、発展し続ける法人運営を実践します。

「奈良県立医科大学 新キャンパス整備基本計画書」より抜粋

①良き医療人を育む充実した学習・教育環境の整備

- ・自発的かつ創造的な学習や研究ができる環境を整備し、良き医療人を育成する場の創造を目指します。
- ・専門分野以外への関心や異分野の人たちとの出会い、コミュニケーションを誘発するような仕掛けづくりや施設整備を目指すことで、多職種連携の基盤形成を促進し、学習・教育環境の充実を図ります。

③機能的で利便性の高い研究推進体制の構築

- ・専門分野の研究だけでなく、学内横断的な研究や大学としての研究など、幅広い研究課題に対し柔軟に対応できるような施設整備を目指します。
- ・施設間の連携や協働を意識したゾーニングを計画し、フレキシブルかつ機能的な使い方ができる施設計画を目指します。

②多様な活動・ふれあいの場となる共有空間の設置

- ・学生同士だけでなく、学生と教職員、学生と地域の人など様々な人たちとのコミュニケーションを誘発するような雰囲気、場所づくりを目指します。
- ・地域の人や学外者も気軽に利用できるスペースを整備し、積極的なコミュニケーションを行える空間づくりを目指します。

④奈良の歴史・風土を取り入れたキャンパス整備

- ・日本最初の本格的な都城である「藤原京」をモチーフに古都奈良に相応しいキャンパス整備を目指します。
- ・歴史的な街並みや景観を意識し、周辺地域と調和のとれたキャンパス整備を目指します。
- ・近傍にそびえる畝傍山などへの眺望確保に配慮し、歴史的景観の保全や活用を目指します。

新キャンパス周辺の市道整備

【背景と課題】

檀原市では、「人とともに、歴史とともに、やさしくつよいまち かしはら」をまちづくりの理念に掲げ、災害に備える都市基盤と体制の強化に取り組んでいます。このまちづくりに関連し、市道慈明寺町・四条町線の拡幅および市道慈明寺線13号線を新設整備することによって、「災害対策時の機能強化」を進めています。

市の中央部には、県内唯一の医科大学に附属し、有事の際には災害医療の中心的役割を担う基幹災害拠点病院となる「県立医科大学附属病院」をはじめ、「檀原警察署」や「かしはら万葉ホール」などがあり、市の西部には、平成26年4月に発足した県内37市町村で構成される「奈良県広域消防組合消防本部」や市内で唯一の広域避難地であるとともに災害用食料等の備蓄施設や救護活動の拠点となる「檀原運動公園」など重要な防災施設が点在しています。災害時にこれらの拠点間を結び、復旧・救護等の活動の際、有効に機能するルートは「大和高田バイパス側道」のみであることから、災害等によりこのルートが遮断された場合、拠点間の動線確保や、広域的な緊急輸送路の確保が、災害対策上の大きな課題となっています。

また、これらの施設は、国道24号と国道169号・165号バイパス等により結節さ

れていますが、四条町交差点や小房交差点周辺は、各施設へ向かう車両や通過車両が集中するため、慢性的な渋滞が発生し、時折、緊急車両が行く手を阻まれるなど、日常生活にも支障をきたしている状況であり、特に有事の際には緊急物資の輸送ルートや避難者の安全な移動動線の確保も危惧されます。

【現在の進捗状況】

各施設の位置と周辺の地形、また、既存住宅の配置状況等から、路線の位置を決め、地権者の皆様方のご協力を頂きながら、現道の市道慈明寺町・四条町線の拡幅整備、市道慈明寺町13号線の新設整備に着手しています。

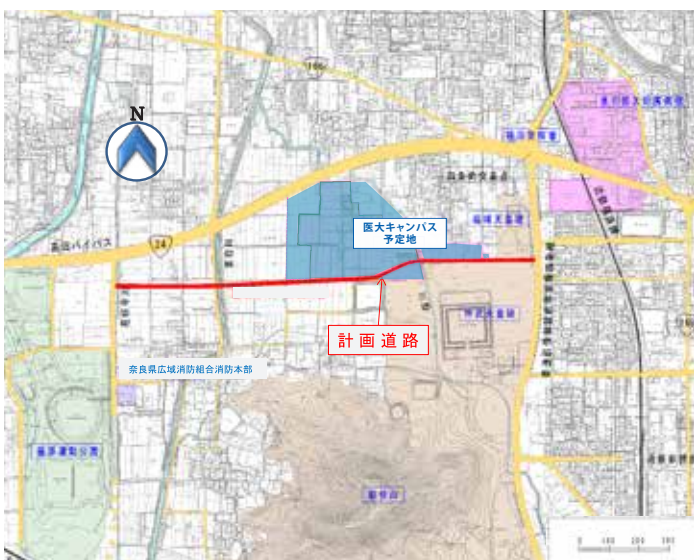
延長は約1,400m、幅員は、参道から新キャンパス付近までの南側は天皇陵となりますので、北側に片側5mの自転車歩行者道で車道が6mで路側帯も含めて全幅12m、新キャンパス付近から檀原運動公園に続く檀原運動公園線までは両側に3.5mの自転車歩行者道、車道は6m路側帯を含めると全幅14mの東西道路が完成します。なお、延長が長いいため、参道から四条西池までの間を第1期工事として、令和2年度を目標に、四条西池から檀原運動公園の檀原高取線までの間を第2期工事として、令和8年度の完成を目標にしています。

【効果】

- ・高田バイパス沿線、特に檀原警察の前の四条町交差点や、万葉ホール付近の小房交差点の渋滞の緩和を図れる。
- ・救命救急時の搬送の時間短縮や、防災アクセス道路としての機能強化が図れる。
- ・新キャンパスオープン時には、病院をつなぐ安全なアクセス道路にもなります。

道路が全線開通するまでは、長期間にわたるご迷惑をおかけすることになります。道路整備の主旨をご理解いただきまして、住民の皆様のご協力を今後賜りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

位置図



MBT（医学を基礎とするまちづくり）の取り組み③

本学では、医学を基礎とするまちづくり、MBT (Medicine - Based Town) 構想を展開しています。これは、従来の医工連携が主に工学的知見を医学に応用するものであったのに対し、医学的知見を工学やまちづくりに活用するものです。医師や看護師等が有する膨大な知識を、患者さんの治療だけでなく、医学的に正しい製品や住居、そしてまちづくりに関わるすべてのものに生かすべく、医学に基づいた社会貢献を目指しています。

今井町で健康教室を開催

MBTの一環として、今井町自治会と共同で毎月2、3回、今井まちや館別館、今井まちづくりセンターで健康教室を開催しています。

健康教室では理学療法士による健康体操の実施や、体操前後のストレッチの健康測定等も行っています。参加者の方からは「とても楽しく体によかった」「2週間に一度の健康体操をとっても楽しみにしています」といった感想が寄せられています。

早稲田大学と連携した取り組み

MBTの取り組みは、早稲田大学とも積極的に連携しています。

早稲田大学が研究のため橿原市今井町の重要伝統的建造物群保存地区内に開設した「今井町分室」に駐在研究員を配置し、ここを拠点として、地元住民等の協力のもと、保存地区内の空き家利活用の研究を行っています。

また今井町分室では、地元住民を対象に本学学生による健康相談、小中高生向けの学習進路相談会や、健康茶の試飲会といった様々なイベントを提供する活動空間としても活用しています。



本学学生による健康相談

さらなるMBTの取り組み

その他、今井町分室では、本学のMBTにおいて研究開発を進めている、高齢者の健康見守りシステムの研究開発に向けて、駐在研究員自らが、健康データ測定機器による実証実験を行うとともに、これらの機器を活用して、地元住民を対象とした健康測定を行う「健康ステーション」も週1回実施しています。さらに今井町分室の土間を利用した「土間ヨガ」教室も実施しています。

今後も、MBTでは、「ひとつも元気に、まちなも元気に」をモットーとして、日々の健康習慣を意識できるプログラム等、医学の知識を最大限使って、地元還元していきます。



理学療法士による健康体操

緩和ケアのご案内「病気になってもその人らしい生活ができるようサポートします」

緩和ケアと聞いて、皆さんはどんなイメージを抱くでしょうか。終末期ケア？ 治療が終わった人が受けるケア？ 医療用麻薬を使うこと？

確かに以前は、がん治療ができなくなつたら緩和ケアの時期」というような理解がされてきました。

しかし、平成18年に制定されたがん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画のなかで、早期からの緩和ケアの推進が重点課題と定められ、それ以来、がんと共に生きることが支える医療と位置づけられています。

近年では、がん以外の病気の方にとっても必要な医療と考えられています。すなわち、緩和ケアとは、病気の診断をされた時からその経過のすべての時期で、身体的、心理・社会的、実存的（スピリチュアル）な苦痛を含めた全人的苦痛（トータルペイン）を緩和し、患者さん・ご家族（ご遺族も含めた）の生活の質の向上をめざすケアのことです。

緩和ケアセンターでは、病気の診療を行っている主治医と一緒に、治療と並行して患者さんやご家族のからだや心のつらさをケアしておられます。緩和ケアでは、医師の他に看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、アロマセラピストと多職種チームという体制でケアを行い、あらゆる観点から、様々な方略を用いて苦痛の緩和に痛み、困難などの身体症状や

不眠、気持ちのつらさに対する薬物療法、カウンセリング、リラクゼーション、食事や栄養のサポートも提供しております。また、病気の療養をしているなかで、自分の役割や仕事のこと、医療費のこと、周囲の人々との関係など種々の悩み、治療の副作用との付き合い方、対処方法についての相談にもおつており、ケースによっては社会福祉士と一緒にサポートさせていただいております。

緩和ケアセンターでは、患者さんやご家族への直接的なケア以外にも、緩和ケアの質の向上や普及・啓発のための活動も行っております。例えば、医師をはじめとする医療者を対象とした緩和ケア研修会や、県内の緩和ケアチームに対するチーム医療をテーマにした研修会、地域の在宅医療を担うスタッフを対象とした在宅緩和ケア研修会、県民の方々への公開講座があります。私たちが当院で緩和ケアを提供することはもちろん、患者さんやご家族がいつでも、どこでも緩和ケアが受けられるような体制を整備することも、緩和ケアセンターの重要な使命です。

療養中の患者さん・ご家族の方々、そして患者さんの周りでサポートしてくださっている方々、ぜひ緩和ケアのことを身近に感じて活用いただきたいと思っております。私たちは、いつでも皆さんをお待ちしております。



平成30年度 県民公開講座



緩和ケアセンター



緩和ケア診察風景

がん相談支援センターの紹介 【附属病院E棟1階ドトールコーヒー奥】

奈良県立医科大学附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院（各都道府県におおむね一ヶ所指定）として、「がんの相談窓口」である「がん相談支援センター」を設置し、専門的ながん治療の提供、患者さん・ご家族に対する相談支援、情報提供など様々な取り組みを行っています。

本学附属病院E棟1階ドトールコーヒー奥に開設しており、患者さんやご家族のほかどなたでも自由に利用していただけます。相談日は平日の9時から17時、対面と電話相談に対応しています。

【誰に話したらいいかわからない】

その悩みお聴かせください

思いもよらない「がん」の診断、楽ではない長期間の治療、多くの方が「漠然とした不安や心配がある」「確認したいことがあるが聴き方がわからない」「医療費や生活費のことが心配」など身体的、心理的、社会的な悩みや心配事を経験します。がん専門相談員がまずはお話を伺います。そして相談の内容により助言や提案、資料などの情報提供、関連部門や関連機関の紹介等の支援をしています。一人で悩まず気軽ににご相談ください。

【小児・AYA世代（15歳から39歳の思春期、若年成人）、働く世代の支援】

小児・AYA世代は就学、就職、結婚、出産などイベントが多く、その治療の過程で、ご家族共に、特有の問題や悩みを抱えることとなります。日々の相談では個々の問題や悩みに対して院内外の専門家と連携して支援しています。

今年度はAYA世代の方を対象のサロン、「AYAのなごみカフェ」を10月19日土曜日の午後で開催します。

また働く世代については、がんの早期発見や治療法の進歩により、治療をしながら仕事が続けられるようになっていきます。国も「治療と仕事の両立支援」施策を推進しています。

当がん相談支援センターでは、がん、糖尿病、肝炎で長期療養中で、「治療しながら、仕事を続けたい。仕事に戻りたい。」方への支援として、相談員による支援、社会保険労務士による労務や経済的問題の相談（毎月一回）、ハローワーク出張相談就職支援（毎週一回）を行っています。相談は予約制です。



【支え合う仲間にあえる場所 患者サロン「なごみ」】

患者さん、ご家族同士が体験を共有し、自由に情報交換をしていただく場、患者サロン「なごみ」を毎月第1・第3金曜日13時30分～15時30分にて実施しています。サロンではピア・サポーター（がん経験者で県の養成研修終了者）の方々が、患者さんやご家族の悩みや心配事などに対して、自らの体験に基づく支援をします。参加者の多くの方から、「元気をもらった。」「前向きな気持ちになった。」「家族にも言えなかったことが話せた。」の声を聴き取っています。毎回12名程度の方が参加され、「支え合う仲間にあえる、語り合いの場」になっています。サロンもどなたでも自由にご利用いただけます。

各診療科の紹介〈腎臓内科〉

腎臓内科は、平成30年1月に第1内科が当科と循環器内科に分かれて誕生しました。腎臓内科では、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、急速進行性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、全身状態の悪化が原因で引き起こされる急性腎障害、薬剤性腎障害など様々な急性期の腎障害に対応しています。このような疾患の診断には腎生検が極めて有用で、積極的に腎生検（写真1）を行い、正確な診断と適切な治療を行うことを大切にしています。

また、高血圧症や糖尿病など生活習慣病に関連した慢性腎臓病（CKD）の診療にも力を入れていきます。CKDの診療では、外来主治医による診察だけでは十分な説明や患者教育が行えないため、看護師や栄養士など多職種で連携をとり、月に1回、腎臓病教室を行っています（写真2）。



写真1



写真2

腎臓病教室は、患者や家族にCKDへの理解を深めていただくことを目的に、医師、看護師、栄養士の他、薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカーにも講義をしてもらい、薬物療法だけではなく生活習慣の改善から医療制度まで幅広い内容の講義を行っています。CKDは多くの合併症を伴うため、循環器内科医、皮膚科医、口腔外科医からも講義をしてもらっています。さらに、災害に備えるために、災害派遣医療チーム（DMAT）の医師から、災害への備えや実際に災害が起こった時に行うべき行動なども説明してもらっています。また、多職種での連携を強化する目的で、月に1回、多職種カンファレンスも行っています（写真3）。

一方、薬物療法や多職種連携による患者教育を行っても、腎機能が低下し腎代替療法が必要となる場合は少なくありません。腎代替療法は、適切な時期に導入されなかった場合、生命予後を悪化させます。



写真3

腎代替療法には血液透析、腹膜透析、腎移植の3つがあり、それぞれの治療にはそれぞれの長所と短所があります。どの治療法が適しているかは、患者の生活スタイルや医療への考え方、患者の年齢や自立度、基礎疾患や合併症、家族構成などのさまざまな要因によって異なるため、時間をかけて十分に話し合い、決定することが重要です。当科では、外来看護師や血液透析に従事する看護師、移植コーディネーターからそれぞれ1時間程度説明してもらい、患者と家族が納得できるまで十分に時間をかけて説明し、最終的にどの治療法を選択するかを決定する際には、医療者と患者がエビデンス（科学的な根拠）や患者情報を共有し、十分に話し合って治療方針を決定する共有意思決定（Shared decision making）の実践を心がけています。

腎代替療法導入後の患者についても積極的に診療を行っており、腹膜透析患者については全面的に外来フォローを行い、多職種での診療を行っています。また、血液透析患者についても、維持透析施設と協力して合併症管理を行っています。今後も、全人的医療の実現のために、他科の医師や多職種のメディカルスタッフと連携をとり、患者と家族に寄り添った診療の提供を目指していきたいと思っております。

2019年奈良県立医科大学大学祭 白樺生祭 「Be Naraself 奈良らしくあれ。自分らしくあれ。」

10/19(土)・20(日) 両日とも9:00～18:00

奈良医大を初めて訪れる方を「初めまして!」という気持ちで歓迎するという思いを込めて開催いたします。

①シンポジウム

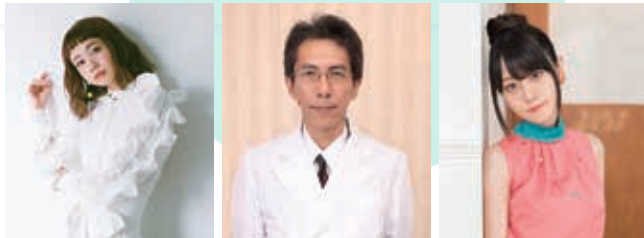
- 10/19(土) 15:00～16:00 三戸 なつめさん(女優)
 10/20(日) 11:00～12:00 澤口 俊之先生
 (人間性脳科学研究所所長)
 15:00～16:00 小倉 唯さん(声優)

場所 本学大講堂



天竺鼠

金属バット



三戸なつめさん

澤口俊之先生

小倉唯さん

②よしもとお笑いライブ!

出演者 笑い飯、天竺鼠、金属バット

10/19(土) 11:00～11:45

場所 屋外特設ステージ



笑い飯

③今年が違う! 医大生本気のメディカルラボ!

子どもも大人も大満足! 医療の道を目指す君も!
 診察体験、胎児エコー体験、縫合体験、医療器具体験、
 あの人気ドラマの放射線治療イベントや救命体験など!
 楽しんで学べます!

10/19(土)・20(日)

両日とも9:00～18:00

場所 体育館



⑤ステージ企画

バンドライブ、ダンスステージ、
 ビンゴ大会、漫才大会 etc...

10/19(土)・20(日) 両日とも9:00～18:00

場所 屋外特設ステージ



④なら・かしはらグルメフェア

出店店舗 サクラ、はないちもんめ、弘済会、
 鈴音堂、サンドマニア、ホワイトハウス、nico
 (旧 LOCOLOCO)、薬膳カレー (10/20のみ)

10/19(土)・20(日) 両日とも9:00～18:00

場所 本学教養教育棟前駐輪場



⑥映画上映会「ぼけますから、よろしくお願ひします」

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を
 丹念に描いたドキュメンタリー映画です。

10/19(土) 9:30～12:00

場所 本学大講堂



信友直子

「奈良医大キャンパスだより」の内容に関する問い合わせやご意見等ございましたら、右記までご連絡ください。

公立大学法人奈良県立医科大学 法人企画部 キャンパス整備推進室
 〒634-8521 奈良県橿原市四条町 840
 TEL 0744-22-3051 (内線 2801, 2804)
 Mail kihonkoso@naramed-u.ac.jp